

第60回試験研究成果発表会（果樹Ⅱ）発表概要

【日 時】 令和5年2月10日（金）10：00～12：00

【場 所】 農林総合研究センター暖地園芸研究所大会議室（館山市山本1762）

発表1 成果発表

より多くのパッションフルーツを味わう！

～パッションフルーツの大苗育成と追熟利用可能時期の検討～

暖地園芸研究所 特産果樹研究室 横山 瑛

本県のパッションフルーツ栽培では、12月以降に樹上に残った果実は完熟せず、そのままでは食べたり、加工利用することができないため、追熟処理を行う必要があります。そこで、追熟により加工用として利用が可能となるための果実の条件（受粉時期、果実品質）を検討しました。露地栽培での定植に適する大苗の育成技術と併せて紹介します。



大苗育成試験の様子



追熟処理試験の様子

発表2 成果発表

着果管理の省力化と安定生産を目指そう！

～温州ミカン「興津早生」を用いた隔年交互結実法～

暖地園芸研究所 特産果樹研究室 平井 達也

隔年交互結実法は温州ミカンで問題となる隔年結果性を逆手にとって活用し、着果管理の省力化と中～小玉の果実の安定生産を図る技術です。園内の樹を遊休樹と生産樹に分け、遊休樹は果実を生産せず、生産樹は遊休樹をカバーするだけの収量が必要となります。導入初年度の遊休樹の省力的な全摘果方法と、生産樹の収量性について紹介します。



遊休樹への摘果剤の散布



生産樹の着果

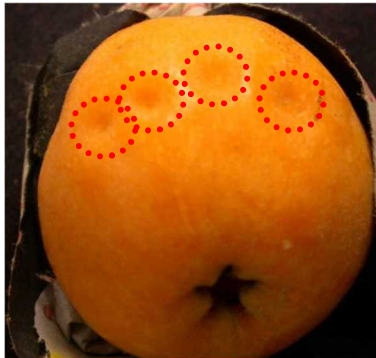
発表3 情報提供

ビワのカメムシ類防除を空から行う時代に！

～ビワ産地における農業用ドローンを用いたカメムシ類防除試験～

安房農業事務所 改良普及課 蔦木 康德

ビワ果実は果樹カメムシ類によって吸汁被害を受け、被害果実は外観品質を損なうため、果樹カメムシ類の多発生年には収量が著しく減少します。産地では、多発生年には動力噴霧機による薬剤防除等の対策が行われていますが、栽培ほ場の多くは傾斜地にあるため、作業負担の少ない対策技術が求められています。そこで、ドローンによる空中散布試験を現地ほ場で実施し、防除効果や作業時間等を明らかにしましたので紹介します。



カメムシ類の吸汁被害果実
(赤丸が被害箇所)



山の頂上のビワ樹に散布する様子

発表4 情報提供

台風被害からのビワの樹の回復を目指して ～マルチ処理で樹勢向上～

暖地園芸研究所 特産果樹研究室 中後 貴寛

本県のビワ産地は、令和元年房総半島台風等の被害を大きく受け、現在においても樹勢の低下から回復していない樹が多く見られます。そこで、冬季から露地ビワ収穫後までのマルチ被覆による露地ビワの樹体生育の促進について紹介します。



透明マルチ被覆の様子



黒マルチ被覆の様子